

ESDでは、題材をいかにして教材化するのかが、ポイントといわれています。
1学期号では、ESDのエキスパートから教材化の実践例をご紹介します。

ESD実践へのいざない

専修大学松戸中学・高等学校教諭 泉 貴久

ESDとその理念

新学習指導要領では、「持続可能な社会の構築・形成」が社会科をはじめとする各教科の学習目標の柱の一つとして明示された。それにともないESD (= Education for Sustainable Development: 持続発展教育) の実践が教育活動全体を通して推進されることとなった。ESDは、「持続可能な社会の実現をめざし、一人ひとりが、世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、より良い社会づくりに参画するための力を育む教育」と定義される。

ESDの推進が叫ばれる背景には、環境問題や南北問題をはじめとする地球規模での諸課題が深刻化し、その解決へ向けての国際協力の必要性が高まってきていることがあげられる。一方、国内においては、東日本大震災を教訓に、エネルギー政策や防災対策が喫緊の課題となっていることがあげられる。

表1は、ESDの理念について整理したものである。この表からESDが知識の習得よりも、思考・判断・表現のプロセスを経ながら社会参加へ向けた能力の育成とそれにふさわしい学習方法を重視していることが理解できる。

ESDの実践例

教育現場では、ESDの知名度は概して低く、それについての知識はあっても、その実践に二の足をふんでいる教員も多い。「具体的は何をすればよいかわからない」「これまでの授業と何が違うのか」「新しいことを試みるのは負担が大きい」などといった不安や戸惑いの声が聞こえてくる。

だが、ESDは何も特別な教育ではない。普段行っている授業のあり方を若干改善することで誰もが実践可能であるはずだ。ここでは、ESDの実践例として、筆者が高校3年生を対象に行った地理の授業を以下に紹介したい。

単元名「知られざる国・エルサルバドル」は、



上：写真をさまざまな角度から読み取るフォトランゲージの手法
下：プレゼンテーションのようす
右：一つのテーマに関連する言葉を連想させ、それをつなげるウェブマップの手法



筆者が2012年8月にJICA（国際協力機構）主催の教師海外研修で現地を訪問した際に収集した資料を教材化して行った実践である。本授業のねらいは、①エルサルバドルを事例に、国家規模の地域を総合的に考察し、理解する能力を身につけること。②エルサルバドルの学習を通じて、異文化理解・多文化共生の態度を身につけること。③作業、討論、発表などの学習を通じて、思考力・判断力・表現力を身につけること。④エルサルバドルと日本との関係を通じて、世界と自分とのつながりに気づくとともに、自らの生き方・あり方を考えるきっかけをつくること、の4点である。

表2は本単元の内容構成を示しているが、ここでは紙幅の都合上、「エルサルバドルが抱える諸課題と解決策」「今後の国づくりを考える」の二つの学習テーマを取り上げ、その授業内容について説明する。

前者のテーマは3時間構成である。1時間目は、7つのグループそれぞれに異なる2枚の写真を配布し、前時までの既習事項をふまえながらその読み取りを行わせることで、この国が抱える7つの課題の存在に気づかせた。2時間目は、前時に各グループが見出した諸課題をテーマにウェブマッ

プの作成を行わせるとともに、そこから読み取れることをグループごとに発表させ、諸課題どうしの因果関係を発見させた。3時間目は、グループごとに各課題の望ましい解決策について多方面から議論をさせ、そこで得た結論を発表させた。

後者のテーマでは、各グループが提案した諸課題への解決策をふまえ、今後の国づくりを進めていくのに必要なキーワードを三つ設定させ、それにもとづきエルサルバドルのあるべき将来像について議論をさせることで、具体的な将来ビジョンを提案させた。

なお、本実践では表1に示す「ESDで育むべき能力」のiv、v、vii、ixの育成をとくに重視した。こうした能力は写真に示す参加型学習によってこそ育まれるものであることを強調しておきたい。

実践の成果と今後の課題

本授業終了後に提出された生徒たちの授業へのコメントの一部を以下に示す。

★この前お店でエルサルバドル産のコーヒーを売っていて、少し嬉しくなりました。この国のことをほんの少しだけ知ることができましたが、それは私たちが発展途上国に何ができるか考える良い機会になったと思います。

☆エルサルバドルをさまざまなテーマに分けて調

べてみて、イメージとは違って驚いた。まだまだ解決すべき問題があると思うので、治安や環境など改善していかなければいけないと思った。ほかにどのような国があるのか知りたくなった。

★先生の撮影した写真を見たら、思った以上に人々が幸せそうな感じで驚いた。先入観でものを見るのはダメだと思った。この授業のおかげで、エルサルバドルに対する関心が強くなり、ネット等で調べてみることもあった。

ここから、彼らが意欲的に授業に取り組んだ結果、エルサルバドルに意識的に目を向けるようになり、また、その国が抱える課題に対して当事者意識をもつようになり、世界と自分とのつながりを意識した態度を見せるようになったことが読み取れる。

今後の課題として、授業で培った生徒たちの前向きな意識や態度を参加・行動へどのように結びつけていくのかを考えていきたい。具体的には、教室から一歩踏み出し、NPOとの連携を深めたボランティア活動等の社会体験の機会を設けていきたい。そうすることで、彼らの社会参画能力は確実に高まっていくはずである。

本実践で示した教材化の視点や多様な方法論を参考にし、実践していただければ幸いである。

表1 ESDの理念

〔持続可能な開発のための10年推進会議（ESD-J）資料をもとに作成。〕

扱うべき領域	i. 社会・文化 ii. 環境 iii. 経済
育むべき価値観	i. 人間の尊厳 ii. 経済・社会的公正 iii. 文化的多様性の尊重 iv. 環境の尊重 v. 将来世代への責任
育むべき能力	i. 自分で感じ考える力 ii. 問題の本質を見抜く力 iii. 多様な価値観を認め尊重する力 iv. 自分が望む社会を思い描く力 v. 他者と協力して物事を進める力 vi. 地域や国、地球の環境容量を理解する力 vii. 具体的な解決方法を生み出す力 viii. 自ら実践する力 ix. 気持ちや考えを表現する力

表2 地理学習単元「知られざる国・エルサルバドル」内容構成（全11時間）

学習テーマ（実施時間）	おもな学習内容	おもな学習方法	学習形態
1. エルサルバドルの存在と世界的位置づけ（1時間）	北中南米の範囲 中米のなかでの位置づけ	メンタルマップ 統計分析	個別
2. エルサルバドルの概要について（3時間）	自然環境、歴史、文化・宗教・民族、政治体制、 産業・経済、外交・貿易、日本との共通点	文献調査 プレゼンテーション	集団
3. エルサルバドルが抱える諸課題と解決策（3時間）	治安の悪さ、失業の問題と産業未発達、自然災害、 教育環境の未整備、アイデンティティ喪失、 貧富の格差、ゴミ処理と環境問題	フォトランゲージ ウェブマップ プロブレム・ソルヴィング プレゼンテーション	集団
4. 今後の国づくりを考える（3時間）	治安の向上、産業活性化、防災・減災、教育の改善、 アイデンティティの向上、格差解消、環境の改善	プランニング プレゼンテーション	集団
5. エルサルバドルと私たちとの今後の関係（1時間）	これまでの授業のふりかえり	レポート作成	個別